代　謝　生　理　学

（旧・生理学第二講座，旧・自律機能生理学）

三木　隆司

本学医学部生理学講座の創設は1884年の県立千葉医学校の山本治郎平教諭による生理学講義まで遡ることができ，その後筒井秀二郎第一高等中学校教諭（のちに教授），宮入慶之助教授，逸見文九郎教授らにより生理学の講義がなされたことが本学の歴史資料に残されている。

しかしながら本格的な生理学講座としての研究・教育の体制が確立されたのは，酒井卓造教授（1907－35年）の時代であり，その後鈴木正夫教授（1935－65年）が教室を主宰した。そして鈴木教授時代の1952年，新制大学院のための講座補充に伴い第二生理学講座が開講された。初代教授には生理学講座の助教授であった福田篤郎が選任された。生理学講座が２講座制へと発展した後，第一生理学講座がいわゆる動物機能生理，第二生理学講座がいわゆる植物機能生理を専門とする生理学を研究テーマとしており，これは現在まで連綿と続いている。

本学での生理学教室の創設から第二生理学講座が独立するまでの教室史については「千葉大学医学部百周年記念誌」（1978年１月発刊）を参照されたい。また，福田（篤）初代教授（1952－75年），本田良行第二代教授（1974－92年）の時代の第二生理学教室の教室史ならびに研究業績については「千葉大学医学部八十五年史」（1964年９月発刊）および千葉大学五十年史（1999年11月発刊）に記載されている。したがって，ここでは福田康一郎が第三代教授（1992－2007年）に就任した後，現在に至るまでについての第二生理学教室の教室史を概述する。

1999年７月に，福田康一郎が助教授から教授に昇任した。本田教授時代に引き続き，本学の呼吸器内科，旧第一内科，旧第三内科，旧第一外科，麻酔科，救急医学，第三解剖学および海外の諸研究室等と連携して呼吸・循環・腎臓機能に関する基礎的，臨床的研究を継続した。1992年10月には，東京大学医学部生理学教室（主任熊田衛教授）の助手河原克雅が講師に採用され，腎機能および細胞生理機能解析に携わり，1994年３月に助教授に昇任した。1995年４月には北里大学医学部生理学教室の教授に招聘された。1992年10月講師に採用された林文明（呼吸・循環調節機能解析）は1997年４月から助教授を務め，大学院生の呼吸・循環機能解析の指導に当たったが，2001年３月家業の医院を引き継ぐため臨床に転出した。1995年４月～1998年３月には本学麻酔科から須藤知子が助手に採用されて呼吸関係の研究に従事した。1997年４月には，東京大学医学部生理学教室（主任熊田教授）助手の桑木共之が講師に採用され，新生ラット・マウスの循環・呼吸機能解析と病態モデル動物の生体機能解析にあたった。1998年４月からは下山恵美が本学麻酔科から助手に採用され，麻酔科と協力して疼痛発生機序の解明に携わり，2001年４月に講師に昇任した。2001年４月から医学部各講座に所属していた教員は，大学院（医学研究院）大講座各領域に移行することになり（大学院部局化），大学院教育（医学薬学教育部，修士課程，博士課程）と学部教育を担当することになった。生理学第二講座は，大学院医学研究院の神経科学部門・高次脳機能学講座・自律機能生理学領域「福田（康），下山」と先端応用医学研究部門・先端応用医学講座・分子統合生理学領域「桑木（研究教授）」に分かれたが，協同して学部・大学院の教育と研究を継続した。2001年10月に本学呼吸器内科出身の中村晃が助手（後に助教）に採用された。講師の下山は2006年８月に帝京大学ちば総合医療センター麻酔科学教授に招聘された。福田（康）は，呼吸に関する中枢化学受容器と呼吸リズム形成機能の関係を継続して検討した。また，2000年８月～2005年３月まで医学部長・大学院医学研究科長，2002年４月～2005年３月まで大学院医学研究院長・医学部長を務めた。この間，全国医学部長病院長会議会長（2001年５月～2002年５月），国立大学医学部長会議常置委員長（2001年10月～2002年10月）を務め，文部科学省の医学教育モデル・コア・カリキュラム策定準備作業と改訂作業（1997年10月～2001年３月，2005年５月～2007年３月）および臨床実習開始前の共用試験システムの構築等（2000年11月～2002年３月）に携わった。さらに国立大学の法人化に伴う準備作業に係わり（2003年８月～2006年３月），2007年３月定年により退職した。この間，在籍した大学院生，研究生等は合計37名である。

2007年12月に，福田（康）の退官の後，神戸大学

より三木隆司が第四代教授（2007年－）に着任した。これに伴い，教室の主要な研究テーマはこれまでの「呼吸・循環生理学」から「糖・エネルギー代謝制御の分子メカニズムの解明」へとシフトし，2010年４月より講座名を代謝生理学へと変更した。また研究手法として，研究室で樹立されていた中枢神経系の実験系に加え，発生工学を用いた遺伝子改変マウスの解析と分子生物学的解析手法が導入された。2008年７月，河村治清が細胞治療学（旧第二内科）から助教に就任した。2008年10月に分子統合生理学の桑木共之が鹿児島大学医学部生理学教授に招聘された。2009年，大学院生の寺田二郎が大学院修了後に米国ウィスコンシン大学へ留学した。現在，三木，中村，河村の３名の教員の他に，李恩瑛，外山真一（呼内），横尾英孝（細胞治療学），森田亜州華，栗林俊輔が大学院生として在籍している。

（みき　たかし）

2012年2月 スタッフ一同 医学部本館正面入口にて